

郷土の偉人を紹介するために、平成26年阿南市文化協会から「阿南市の先覚者たち第1・2集」が刊行されました。
阿南市の発展に尽力された人たちの偉業を顕彰し、後世に語り継ぐために、27人の先覚者たちを奇数月に掲載して紹介します。

日本電気学の祖

橋本 宗吉

橋本宗吉（1763年～1836年）は、江戸時代後期に活躍した大阪蘭学の創始者として、また「日本電気学の祖」ともいわれている人物である。

宗吉は現在の阿南市新野町出身と言われているが、残念ながらそのことを知る市民はさほど多くはない。

宗吉の祖父は農村に土着した武士であったため苗字を名乗ることができたが、父の伊平の代になると生活が困窮し始め、わずかな田畑を売り払ってしまったため、父は宗吉を連れ大阪へ移り住むことになった。宗吉が阿南の地で暮らしたのは幼少期のみとされている。

宗吉は24歳の時に大阪の蘭学者で医師の小石元俊に入門した。宗吉はその才能を発揮。豪商らの援助を受け、江戸に遊学。杉田玄白の弟子であった大槻玄沢に入門した。宗吉はわずか2カ月で単語4万語を覚え、4カ月で『蘭学階梯』『蘭語草稿』を習得したといわれている。

大阪に帰った宗吉は1797年、蘭学塾絲漢堂を開いた。翌年には80人の門弟が集まったといわれている。当時の宗吉は蘭学者として一流であり「蘭学者相撲番付」でも西の小結に挙げられているほどであった。1800年には『西洋産育手術全集』を執筆、その成果は宗吉の名を全国に知らしめた。

そして1811年、宗吉は若い時から興味を持っていたエレキテルに関する書籍『エレキテル究理原』を執筆。この本は日本で初めての実験電気学の書籍で、この業績により橋本宗吉は「日本電気学の祖」といわれた。

エレキテルを復元し日本に紹介

したのは平賀源内だが、彼は単なる見世物として終始したといわれており、宗吉は自らエレキテルを制作し、実験を通してその仕組みを徹底的に研究するなどしたその姿勢が「日本電気学の祖」といわれるゆえんである。

晩年の宗吉については実はあまりよくは分かっていない。一説には1827年のいわゆる「シーボルト事件」を発端に、宗吉は当時幕府が厳しく取り締まっていたクリシタン容疑で逮捕された（後に釈放）ことにより、広島県竹原市に一時転居したといわれている。

宗吉は1836年に死去。大阪府上本町の念仏寺で葬儀が執り行われた。現在、念仏寺には大正時代に再建された墓が建てられている。

参考資料

「阿南市の先覚者たち 第一集」
2014・阿南市文化協会

次回(9月号)は「竹内十郎兵衛」と「東條作太郎」を紹介します。

問い合わせ

文化振興課 ☎22-11798

Matinée 山田沙織 ヴィオラリサイタル

ブレーメン・フィルハーモニー管弦楽団正団員として活躍中の阿南市出身アーティスト山田沙織さんが、徳島にて初の帰国公演を行います。山田さんが奏でるヴィオラと、川原由衣さんのピアノによる共演をお楽しみください。

日時 7月28日(日) 14:00開演(開場13:30)
場所 夢ホール(文化会館)
入場料(全席指定席) 一般1,500円
(当日500円増し)
※未就学児の入場はご遠慮ください。

チケット販売場所

文化会館、情報文化センター、徳島新聞社事業部(徳島新聞各販売店でも取次ぎします)、平惣(徳島店・田宮店・小松島店・羽ノ浦店・阿南センター店)、黒崎楽器(徳島店・阿南店)



問い合わせ 文化会館 ☎21-0808 ※9:00~17:00(水曜休館)